

ふる里山田同郷の会



思い出話に花咲かせ



小川徹弘会長

総会に先立ち行われた「ふる里及び会からの報告」では、町の復興状況を町水産商工課の甲斐谷芳一課長がスライドを使いながら説明。参加者は、高台団地の造成や防潮堤の再建状況など、現在の町の姿を真剣なまなざしで見つめていました。

その後、町内において商業や観光、物産の分野で町の復興を支援している「やまだ復興応援隊」の紹介と活動報告を実施。

同隊から昨年の活動と、今年度始まったふるさと寄附金制度による「ふるさと特産品」の説明が行われると、出席者から大きな関心が寄せられていました。次にふる里会からは、町内で

東京近郊に暮らす本町出身者などが集い、交流を深める「ふる里山田同郷の会」が6月14日、文京区湯島の東京ガーデンパレスを会場に開かれました。ことしで29回目を迎える同会には、170人が出席。総会で本年度の事業計画や収支予算などを審議した後、「懇親交流の集い」が開かれ、会場のあちこちに談笑の輪ができ、年に一度の同郷人同士の交流を楽しんでいました。

寿司の振る舞いを行った「寿司キャラバン」の報告。仮設住宅の現状や町民と触れ合った感想を交えながらの説明に、参加者は熱心に耳を傾けていました。

続いて行われた総会では、平成26年度の事業報告や本年度の事業計画を審議。原案どおり承認されました。

総会終了後の休憩時間には、会場内の物産販売コーナーに長蛇の列。スキー競技で世界的に活躍している阿部友里香さんも売り子として活躍し、地元のを求める人でにぎわいました。

そして、いよいよ待ちに待った「懇親交流の集い」。はじめに小川徹弘会長が「会員の手作りによりのこの会を開きました。ぜひいっぱい飲んで、たくさん話して、大いに楽しんでください」とあいさつしました。

続いて、甲斐谷義昭副町長が町を代表して登壇。「震災ではふる里会の方々から心温まる支援活動をしていただき、大変感



参加者からひとこと



佐藤 大さん（82歳）〔田の浜出身〕

ふる里会には、懐かしい人たちに会うのが楽しみで、ずっと参加しています。地元の友人とは連絡を取り続けていますが、首都圏に住んでいると、山田の情報がなかなか探し出せません。観光面などで発信力を強化し、全国に山田をPRして欲しいと思います。応援しています！



片野 郁子さん（58歳）、沼崎 浩さん（59歳）
〔織笠出身〕

織笠地区の同級生は他の地区に負けなくらい結束力があり、今でも地元の仲間との付き合いが続いています。震災によりかつての町並みが失われたのは寂しいですが、美しい海や山の風景と共に町が力強く生まれ変わることを期待しています。みんなでがんばっぺ！



鈴木 早苗さん（38歳）〔世田谷区在住〕

父が北浜町出身という縁で、大学生のころからふる里会に参加しています。何度か山田を訪れたことがあり、まるで地上の楽園のような美しい景色と、人のやさしさが印象的でした。国内だけでなく世界からも人が集まるような、すてきな町として復興して欲しいと思います。



③



①虎の躍動感あふれる踊りを映像に残そうと誰もがカメラを構えます／②「地元の味」を求める人でにぎわう物産販売コーナー／③懐かしい知人たちとパチリ／④普段会えない人たちと会話が弾みます



謝っています。後世に誇れるまちづくりのためにまい進してまいります」と、佐藤町長の祝辞を代読しました。

懇談の時間は、豊間根信町（まねの）議会議員の乾杯の音頭でスタート。参加者らは、同郷の知人や友人と思ひ出話に花を咲かせました。懇談の中では、境田虎舞が威勢のいい掛け声とともに登場。ほろ酔い気分の皆さんは、故郷の祭りを思い出しながら、勇壮な舞に歓声を上げていました。

最後は、山田に思いをはせながら「故郷」などを全員で合唱。来年の再開を誓い合いました。